

クロスドメイン協業における社会的インパクトを最大化するための パートナー選定手法の検討

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

關達也 田中康平 大浦史仁 白坂成功

邦文要旨

近年の社会課題解決には複数主体による協業が不可欠だが、パートナー選定プロセスの欠如が隘路となっている。本研究は、Vestergaard の Impact Value Chain を拡張し、社会課題起点の Social Issue Expansion Map、ケイパビリティ可視化、ネットワーク設計（Bonding/Bridging）を統合した三段階選定フレームワークを提案する。予備検証により説明容易性向上の示唆を得た。本手法は初期段階の意思決定に説明可能性と再現性を与え、長期的な社会的アウトカムへの接続性を高める。

邦文キーワード

パートナー選定、ネットワーク設計、社会的インパクト評価、オープン・イノベーション

英文要旨

Collaborative approaches involving multiple stakeholders are essential for addressing contemporary social issues, yet the absence of systematic partner selection processes remains a critical bottleneck. This study extends Vestergaard's Impact Value Chain by proposing a three-stage partner selection framework that integrates: (1) a Social Issue Expansion Map rooted in social challenges, (2) capability visualization, and (3) strategic network design incorporating bonding and bridging ties. Preliminary validation suggests improved explainability in decision-making processes. The proposed framework provides transparency and reproducibility to early-stage partnership decisions, thereby enhancing connectivity to long-term social outcomes.

英文キーワード

Partner Selection, Network Design, Open Innovation, Impact Evaluation

シンポジウム・大会 研究発表要旨

はじめに

近年の社会課題は相互依存性を増し、単一組織・単一分野では解決困難となっている。内閣府は「総合知」による知の統合を、情報処理推進機構デジタルアーキテクチャ・デザインセンターはメッシュ型産業構造への移行を提起しており、協調領域での水平連携と複数主体による価値共創が求められている。しかし、実務現場では初期のパートナー探索・選定が隘路となる。2022年の文部科学省の調査は、連携先情報の不足、調整コストの過多、出会い機会の希薄さを継続的課題として指摘しており、多様な主体との協働を制度的・実務的に阻害している。この制約は協業の立ち上げ速度のみならず、選定過程の正当性にも影響し、後工程のガバナンスに長期的影響を及ぼす。

イノベーション研究ではオープン・イノベーション (Chesbrough 2003) を通じた外部知の統合が重視されている。Vestergaard ら (2021) は Collaborative Potential と Impact Potential の二層評価の枠組みを提示し、ネットワーク研究では Bonding (強結束) と Bridging (弱結束) の配合が知識移転・実装に与える効果が実証されている (Putnam 2000; Reagans & McEvily 2003)。しかし既存研究は、①選定時の情報不足・調整コスト、② Impact Potential とネットワーク設計の統合、③可視化と手続的正当性の両立に十分応えてこなかった。特に Vestergaard の枠組みはパートナー既選定を前提としており、新規協業立ち上げ時の選定プロセスが欠如していた。本研究はこのギャップに対し、社会課題起点から協業体制構築までを一貫して接続する、社会的インパクト最大化に資する実務適用可能なパートナー選定フレームワークを提案する。

研究方法・アプローチ

本研究は、Vestergaard の Impact Value Chain に Partner Evaluation を新設した三段階プロセスを提案する。Step1 (Issue & Mission) では、Rittel & Webber (1973) の「ウィキッド・プロブレム」概念に基づき、社会課題を縦軸 (Why 軸＝原因遡及／So What 軸＝帰結展開) と横軸 (経済・社会・自然) で展開する Social Issue Expansion Map (図1) を作成する。横軸の三領域は国連ブルントラント報告 (1987) に、形式は石井 (2008) のバリューグラフに依拠する。展開された社会課題に対応する What (何を実現するか) を「社会インパクト×自社単独では解けない度」の二軸 (KJ 法着想) で配置し、Stanford Impact Compass の KO 要件とスコアリングを参照して Mission を確定する。Step2 (Input) では、Mission を実現するケイパビリティを網羅化し、Capability Flow Block Diagram (図2) により、メイン／サブの流れと Bonding／Bridging の配置仮説を明確化する。理論的根拠は Putnam (2000)、Reagans & McEvily (2003) に依拠する。Step3 (Partner Evaluation) では、自社・既協業先・未協業先を機能別にマッピングし、成果解釈容易性 (OI) ×プロセス管理容易性 (PM) で価値観と管理コストを評価する (Shah & Swaminathan 2008)。クリティカルパスには Bonding を優先配置し、可視化ツールをバウンダリー・オブジェクト (Star & Griesemer 1989) として活用する。最終的に Vestergaard et al. (2021) の Impact Potential (目的適合・相補性・ガバナンス・エンパワーメント・自立発展性) で妥当性を点検する。

シンポジウム・大会 研究発表要旨

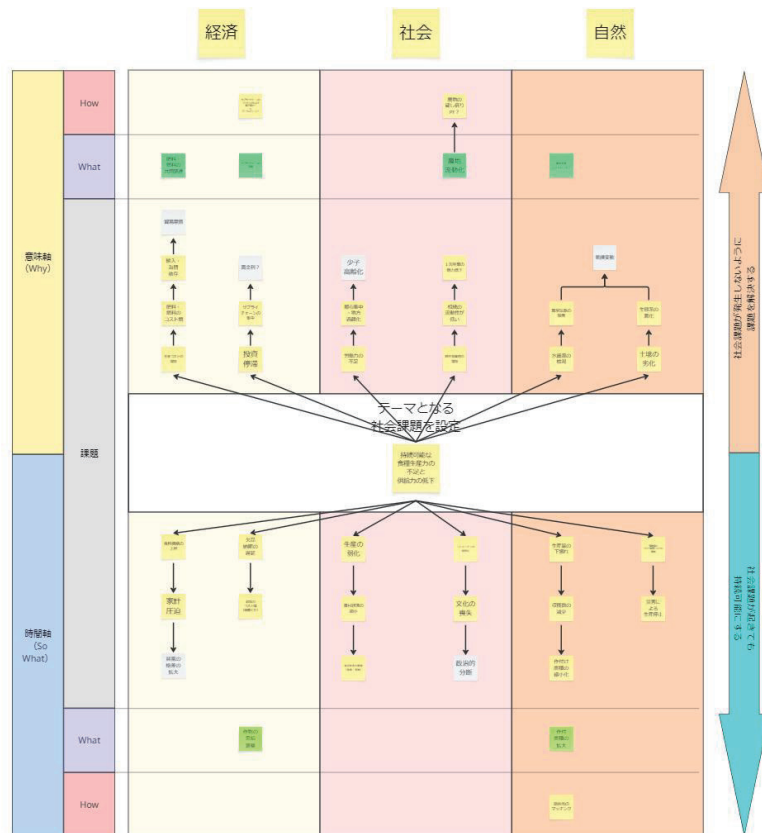


図1 Social Issue Expansion Map

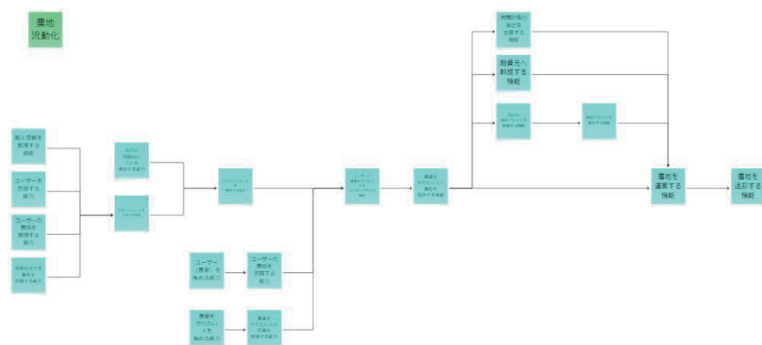


図2 Capability Flow Block Diagram

結果・考察

予備的検討として、筆者が「持続可能な食糧生産力の不足と供給力の低下」という社会課題に対してプロトタイプを実施した。実施を通じて、Social Issue Expansion Map による課題構造の可視化、Capability Flow Block Diagram によるクリティカルパス特定とリスク認識の向上、ステークホルダーへの説明容易性の改善という手法の有効性が確認された。一方で、フレームワーク習熟の時間的コスト、評価軸の重みづけにおける裁量性の高

シンポジウム・大会 研究発表要旨

さが課題として認識された。このプロトタイプに基づき、今後三段階の検証を計画している。第一段階として、社会人学生2名を対象にワークとして成立しうるかという初期的な確からしさの確認を行う。第二段階として、初期検証で一定の成立可能性が確認された後、10～30名の新規事業開発・協業経験者を対象にワークを実施し、意思決定の納得感・観点の網羅性・議論の生産性を測定することで、手法の実務的な有効性を検証する。第三段階として、これらの実施結果について有識者インタビューを行い、結果の妥当性および手法としての理論的整合性を確認する予定である。

結論

本研究は、Impact Potential を核に、パートナー選定からチーム設計を一貫させるフレームワークを提示する。Vestergaard の枠組みが欠いていた選定プロセスを補完し、ネットワーク設計 (Bonding/Bridging) と協働の実務要件を橋渡しし、初期段階の意思決定に説明可能性と再現性を与える。政府が要請する総合知・メッシュ型産業構造の実現に貢献し、長期的な社会的アウトカムへの接続性向上に貢献する。

参考文献

- Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating and Profiting from Technology*. Boston: Harvard Business School Press, 2003.
- Putnam, Robert D. *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*. New York: Simon & Schuster, 2000.
- Reagans, Ray, and Bill McEvily. "Network Structure and Knowledge Transfer: The Effects of Cohesion and Range." *Administrative Science Quarterly* 48, no. 2 (2003): 240–267.
- Rittel, Horst W. J., and Melvin M. Webber. "Dilemmas in a General Theory of Planning." *Policy Sciences* 4, no. 2 (1973): 155–169.
- Shah, Reshma H., and Vanitha Swaminathan. "Factors Influencing Partner Selection in Strategic Alliances: The Moderating Role of Alliance Context." *Strategic Management Journal* 29, no. 5 (2008): 471–494.
- Star, Susan Leigh, and James R. Griesemer. "Institutional Ecology, 'Translations' and Boundary Objects: Amateurs and Professionals in Berkeley's Museum of Vertebrate Zoology, 1907–39." *Social Studies of Science* 19, no. 3 (1989): 387–420.
- Vestergaard, Anne, Thilde Langevang, Mette Morsing, and Luisa Murphy. "Partnerships for Development: Assessing the Impact Potential of Cross-sector Partnerships." *World Development* 143 (2021): 105447.
- Malhotra, Neil, Bernadette Clavier, and Emily Bailard. "The Impact Compass: The 6 Dimensions of Social Impact." Stanford Graduate School of Business, Center for Social Innovation (White Paper)
- World Commission on Environment and Development (WCED). *Our Common Future*. Oxford: Oxford University Press, 1987.
- Ishii, Kosuke, and Kenji Iino. 『価値づくり設計: 設計の科学』 (in Japanese). Tokyo: Yokendo, 2008.
- 内閣府 CSTI (2022) 『「総合知」の基本的考え方及び戦略的に推進する方策〈中間とりまとめ〉』
- 情報処理推進機構 (2024) 『企業間取引将来ビジョン検討会 最終報告書』
- 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 (2023) 『民間企業の研究活動に関する調査報告 2022』